

第25回全国健康福祉祭 宮城・仙台大会

「地域文化伝承館」開設

平成24年10月13日(土)から16日(火)までの4日間、「伊達の地に 実れ！ねんりん いきいきと」をテーマに、宮城県内7市6町を会場に「第25回全国健康福祉祭 宮城・仙台大会」が開催されました。

老人クラブでは、今年で第22回を数える「地域文化伝承館」を13日から15日までの3日間、仙台市宮城野区の「夢メッセみやぎ」に開設して、常陸宮殿下・同妃殿下を始めとする多数のご来賓・来館者をお迎えして高齢者の知識や技術、日頃の活動の成果を披露し、高齢者や若い世代との交流を深めることが出来ました。

▼復興支援に感謝を込めて

今回は、東日本大震災による復興への確かな歩みと復興支援への感謝の気持ちを伝えるため「健康に感謝！仲間に感謝！ふるさとに感謝！絆に感謝！」をスローガンに、全老連と開催地である宮城県老人クラブ連合会と仙台市老人クラブ連合会が感謝とおもてなしの心を持って準備し、開館式を迎えました。

初日の開館式は、館内の特設ステージで、全老連 斎藤十朗会長、宮城県老連 坂本せん会長、仙台市老連 橋本典子会長による主管者挨拶に引き続き、多忙の中駆けつけていただいた来賓の方々との協力による除幕でスタートを切りました。

【来賓】

- 厚生労働省大臣官房審議官 西藤公司氏
- 宮城県保健福祉部長 岡部 敦氏
- 仙台市健康福祉局長 高橋宮人氏
- 長寿社会開発センター理事・事務局長 石黒秀喜氏

▼ブースもステージも大盛況

地域文化伝承館の入場口前には、入場を待ちわびる多くの人列ができ、10時のオープンと同時に笑顔と感謝の気持ちで出迎えたスタッフに誘導され、館内20の出展ブースは、一気に熱気に包まれました。

ブースでは、竹細工、凧、木工品や手芸品

マスクットの「むすび丸」も来場して来館者とふれあい、高齢者の健康づくりと生きがいづくりのために応援してくれました。

▼今回は、南国高知県で開催

3日間、多数の人が来場して体験と交流が繰り広げられた地域文化伝承館の最終日には、次回開催地を代表して、高知県老人クラブ連合会の正副会長が出席して閉館式が行われました。主管者挨拶の後に行われた地域文化伝承館のシンボル「伝承館旗」の伝達式では、宮城県老連 坂本会長と仙台市老連 橋本会長の二人の手から次回開催地の高知県老連 加藤美代治会長の手にしっかりと引き継がれました。加藤会長からは、「高知県は自然が豊かで、海、山川に育まれた故郷の原風景と風情が多く残るところです。この風土の伝統や文化を出来るだけ多くお見せしたいと頑張っておりますので、来年は是非、高知県にお越しください」との次回開催に向けた力強い決意と招待がありました。

仙台市老連が用意したおもてなしお茶席コーナーでは、会場での休憩を兼ねてお点前を受けようとする人たちが大変にぎわっておりました。

期間中、会場には大会



会場での餅まき (大衛村老連)

最後に、宮城県老連三塚昭悦副会長の発声で万歳三唱が行われ、伝承館の幕を閉じました。



伝承館旗がしっかりと引き継がれました (閉館式)



手芸品の体験 (仙台市老連女性部)

段ボール甲冑の試着 (多賀城市老連)



大会マスコット・むすび丸も観覧

伝統芸能「さんさ時雨」の披露 (仙台市若林区七郷地区老連)



常陸宮殿下・同妃殿下のご来館